

市長は「誤差の範囲」との府の主張を受け入れると答弁
市が下水処理費用を3年間府に過大に支払い

宇治市の下水は大きく分けて、宇治川から西の地域は洛南処理区として京都府の洛南浄化センターで最終処理がされ、宇治川から東の地域は東宇治処理区として、最後は宇治市の東宇治浄化センターで最終処理がされて川に放流されています。

洛南浄化センターは宇治市の洛南処理区だけでなく、京都市や城陽市、久御山町や八幡市の下水も処理しており、処理費用は京都府に各市町村が排水量に応じて支払うことになっています。

久御山の排水量を宇治に過大にカウント

各市町村の排水量は、京都府が各自治体の境界に設置した流量計で計算し、市の上流地点に設置された流量計から下流地点の流量計の差から算出をしています。

【図】の久御山との境である宇治3から、向島2と宇治4の合計を差し引いた分が、宇治市の下水の排水量となります。

宇治市の排水量は、2018年度は約1,113万m³でしたが、2019年度は1,212万m³、2020年度は1,295万m³、2021年度は1,234万m³で、2018年度と比べて約1.2倍も多く、府から排水量とされて、府に処理費用を支払っていました。

一方で、久御山町は2018年度384万m³だったのが、2019年度は330万m³、2020年度は305万m³と排水量が大きく減っています。

このことから、宇治市は京都府の流量計に問題があり、久御山町としてカウントされるべき流量が宇治市にカウントされていたのではないかと府に問題提起をし、2022年3月に京都府流域下水道事業経営審議会に、調査部会が設置されていたことが、党議員の質疑で明らかになりました。

排水量の補正をあきらめると市長が答弁

しかし、今年6月の第5回の調査部会の取りまとめでは、「流量計測に問題がない」「計測誤差の範囲」とされ、府も「原因の特定にいたらなかった」「計測誤差は長期間では相殺されている」として、宇治市の排水量や料金の補正を行うことは困難と答えています。

この調査部会と府の対応に対して、市長は「受け入れる」と議会で答弁し、排水量や料金の補正を謹める方針を示しました。

市民に負担した下水料金にも影響が

報告をうけた建設水道常任委員会で、市は過大な負担は約9,400万円だったと説明。

党議員は「市民の下水道使用料が過大に府に支払われていた。なぜ、府の誤差の範囲との主張を受け入れるのか」と追及。市は「京都府も最大限頑張ってくれたが原因究明にはいたらなかった」「今後は再発防止を求めていく」と答弁しました。

党議員は「府の不正確な流量計で高い料金を支払っていたのだから、府に返してもらうのが当然だ」と市の態度を批判しました。

京都府にものが言えない市政は、市民の負担する公共料金にも大きく影響しており、決して許されません。

